

管内月間火山概況 (平成 21 年 3 月)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (3月31日現在)

- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制) : 桜島
- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制) : 薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
- 噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常) : 九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 (新燃岳)、霧島山 (御鉢)
- 噴火予報 (平常) : 阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



凡例

▲ : 噴火警報発表中の火山 ○ : その他の火山

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況(平成 21 年 4 月分)は平成 21 年 5 月 11 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用しています (承認番号:平 20 業使、第 385 号)。

各火山の活動状況及び予報警報事項

2日10時30分、桜島に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺警報）から3（入山規制）に引き上げました。

桜島では、昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くまでの範囲で警戒が必要なことから、10日07時10分に火口周辺警報を切り替えました（噴火警戒レベル3（入山規制）継続）。

18日15時00分、口永良部島に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

阿蘇山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

中岳第一火口では、南側火口壁からごく微量の火山灰の噴出が時々確認されたほか、24日の現地調査では火口の南西側で微量の降灰が確認されました。また、夜間の現地調査では南側火口壁の噴気孔で火炎現象¹⁾が観測されました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内では火山灰や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその周辺では火山灰の噴出等に警戒が必要です。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

1) 熱せられた噴出物が炎のように見える現象。

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴気がみられており、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性がありますので、火山灰等の噴出に警戒が必要です。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕 ←3月2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ。3月10日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）を切り替え

桜島の昭和火口では、1日から2日にかけて、爆発的噴火が3回発生し、2日06時53分には弾道を描いて飛散する大きな噴石が昭和火口より4合目（火口から800mから1300m）まで達しました。また、大隅河川国道事務所が有村に設置している傾斜計の観測では、山体の膨張と考えられる変化が認められました。このため、桜島の噴火活動は活発化する傾向にあると判断し、2日10時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

また、昭和火口では、10日05時22分に爆発的噴火が発生し、大きな噴石が2合目（昭和火口から2km付近）まで達しました。

このことから、桜島の噴火活動は活発化する恐れがあると判断し、10日07時10分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル3を切り替えました。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていません。

昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くまでの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

薩摩硫黄島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

噴煙活動はやや活発で、火山性地震回数はやや多い状態で経過しました。

今後、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1

km の範囲では警戒が必要です。

口永良部島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)] ←3月 18 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 3 (入山規制) から 2 (火口周辺規制) に引き下げ

GPS 連続観測では、2008 年 9 月以降認められていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、今年 2 月頃から鈍化しています。火山ガス観測では 2009 年 9 月から 12 月頃にかけて増加した二酸化硫黄の放出量が 2009 年 1 月以降、やや減少しています。火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。23 日に行なった熱観測では 2009 年 1 月以降、新岳南西側の熱異常域の分布に特段の変化はありませんでした。

これらのことから口永良部島では、新岳火口から 2 km 程度の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、18 日 15 時 00 分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを 3 (入山規制) から 2 (火口周辺規制) に引き下げました。

今後、新岳火口から 1 km 程度の範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

爆発的噴火は 13 回発生し、小規模な噴火も時々発生しました。諏訪之瀬島ではこれまでも長期間にわたり噴火を繰り返しています。

今後も、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。